

第3章 銚子市の概要

1. 銚子市の位置

本市は、東経 140 度 41 分～50 分、北緯 35 度 41 分～48 分、千葉県北東部に位置しています。市域は東西に約 16.2 km、南北に約 12.8 kmへと広がり、面積は 84.20 km²です。東京から 100 km 圏内にあり、ＪＲ東日本の総武本線により東京駅と約 120 分（特急）で結ばれています。

関東平野の最東端に位置し、北は利根川、東から南は太平洋に面しています。江戸時代に利根川が東遷し、銚子で太平洋へ注ぐ流路へと改変されたことにより、利根水運を活かした商業都市として発展すると同時に、漁業や醤油醸造業も発展したことで、千葉県で二番目に市制施行しました。



図6 銚子市の位置

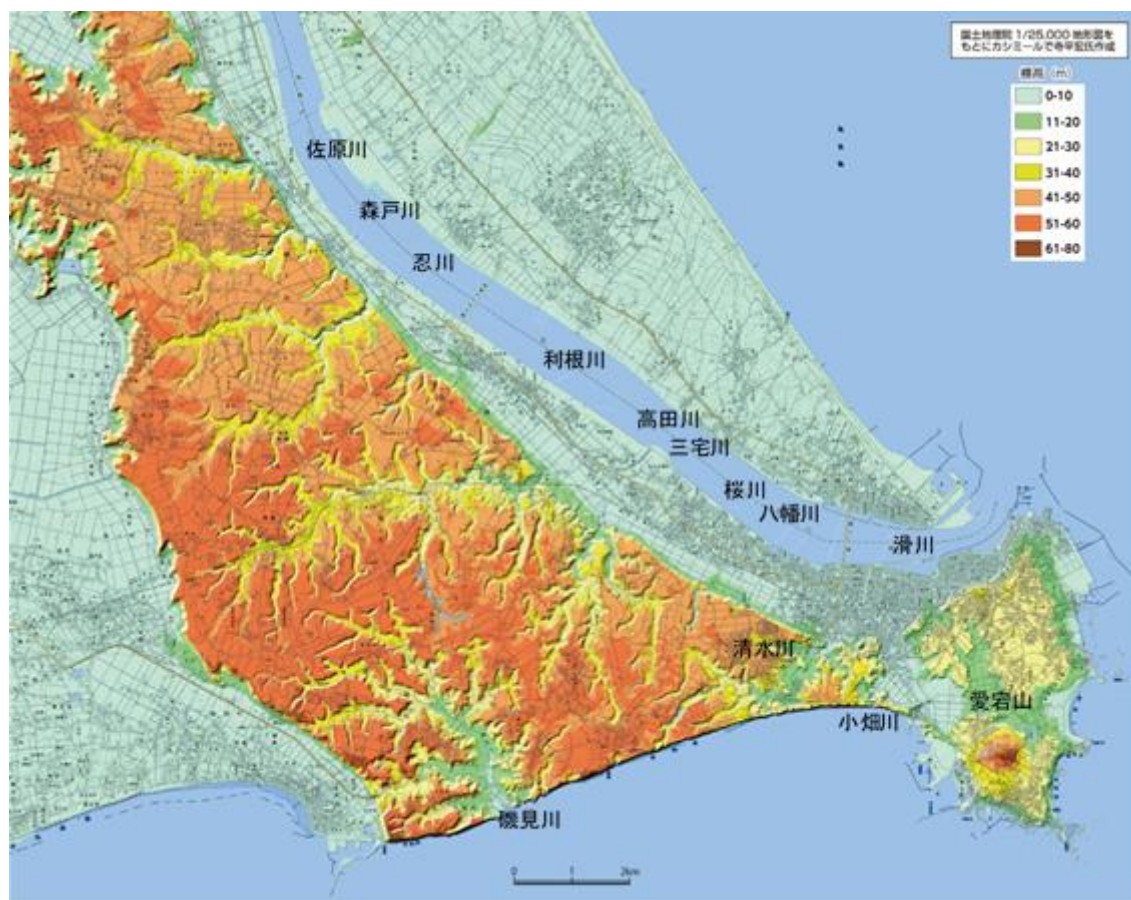


図7 銚子市の地勢

2. 銚子市の自然環境・地理的環境

(1) 地形・地質

千葉県の東端に位置する本市は、三方を太平洋と利根川に囲まれ、半島状に太平洋に突出した独特の地形を呈しています。

本市の東部には愛宕山あたごやまと呼ばれる小高い山があり、海岸線にはさまざまな時代の地層が露出しています。これは愛宕山を中心に局所的に隆起しているためで、東関東で唯一の古生界の基盤岩が露出している場所です。また、銚子地域は日本の地質体を大きく2分する「東北日本」「西南日本」の境界付近に位置すると考えられています。この境界の東端はまだ確定しておらず、銚子の地層がその謎を解くものとして学術的に注目されています。

銚子地域の西部は、大部分が高さ 50－60mの台地で下総台地しもうさだいちの東端部にあたり飯岡台地いいおかだいちとも呼ばれています。

銚子地域の北側には利根川が流れ、銚子から太平洋に注ぎ、利根川の南岸には沖積層ちゅうせきそう※1の平野が広がっています。また、河岸線に沿って平行にかつての浜堤ひんてい※2の高まりを見ることができます。

①東部地域：愛宕山及び東海岸の地層

愛宕山いぬいわや犬岩せ ん が い わ、千騎ケ岩は愛宕山層群と呼ばれ、付加体ふかたい（※3）と考えられています。岩体がブロック状に破碎された様子や、砂岩と泥岩が破碎され混ざったように見える混在岩を観察することができます。付加体が形成された年代は詳細には明らかにされていませんが、約2億年前と考えられています。この愛宕山層群の地層は、硬く侵食されにくいいため、海に突出するような高台が形成され、景観を楽しむ眺望地点としての役割を担っています。

この愛宕山層群の上部には白亜系の銚子層群があり、東海岸に露出しています。銚子層群は約1.3－1億年前の地層で、礫岩れきがん、砂岩さいがん、泥岩でいがんからなり、アンモナイトなど恐竜時代の化石を多産しています。犬吠埼付近は、浅い海の堆積構造せいこんか せきや生痕化石がよく観察できるため「犬吠埼の白亜紀浅海堆積物」として国の天然記念物に指定（犬吠埼：2002年（平成14）3月19日指定）されています。また、銚子層群の砂岩は古くから「銚子石ちようしいし」と呼ばれ、建材などに利用されてきました。

さらに、愛宕山層群と銚子層群を覆う中新統ちゅうしんとうがわずかに分布しています。銚子地域の中新統は火山礫凝灰岩からなる安山岩の溶岩流を含む千人塚層せん にん づかと海成シルト岩からなる夫婦ケ鼻層め ど が は なに二分されます。どちらもちょうど日本海が形成された時代（千人塚層：約2,000万年前、夫婦ケ鼻層：約1,700万年前）の地層です。

千人塚層の安山岩は利根川河口の川口、黒生、長崎くろはいに露出しており、利根川の河口が船の難所であった要因の1つは、この硬い安山岩の岩礁の存在です。河口にあった安山岩は漁港整備に伴い取り除かれ、その一部が「古銅輝石安山岩公園こどうきせきあんざんがん」（川口町）に保存展示されています。

夫婦ケ鼻層は銚子地域の北東端の夫婦ケ鼻（現在の銚子ポートタワーの下）から海岸沿いに黒生付近まで連続して露出していましたが、現在は開発により銚子ポートタワー下にわずか6m程度が露出するだけとなっています。

②西部地域：下総台地、屏風ヶ浦の地層

本市の西部には下総台地が広がっています。台地の平坦面はかつて（約12万年前－6万年前）の海岸近くの海底面で、隆起と汎世界的な海水準変動（※4）の結果、基本的に4段面の後期更新統の海成段丘が分布する現在の形になりました。この台地には谷がいくつも刻まれており、平坦面は農業や畜産業に利用されています。

市域の南の海岸線は、犬若から旭市刑部岬まで緩やかに湾曲し、「屏風ヶ浦」と呼ばれる海域が広がっています。江戸時代後期から江戸庶民の間で流行した「銚子磯めぐり」の終着地から見える「富士見」の名勝として人気を博した景勝地です。この「屏風ヶ浦」の景観を構成する重要な要素の一つに海食崖があります。この崖は下総台地の東端にあたり、常に波浪によって侵食が続いています。この屏風ヶ浦の雄大な崖は、普段目にすることができない下総台地の地下断面を見ていることになります。屏風ヶ浦の海食崖の地層は下位から犬吠層群、香取層、関東ローム層の3つに区分することができます。

犬吠層群は関東が広く沈降し深い海になった時代の地層で、時代と共に徐々に埋め立てられ浅くなった様子が地層に記録されています。堆積した年代は約500－40万年前で、屏風ヶ浦ではそのうち約300－100万年前の地層を見ることができます。香取層は約12－6万年前に浅い海（古東京湾）で堆積した地層で砂岩からなり、下総層群木下層や常総層に対応しています。香取層の堆積後、銚子地域では西方から離水し、おおよそ東に向かい標高が低くなるいくつかの段丘面を形成したと考えられています。このように下総台地の隆起や侵食という大地の活動によりもたらされた特徴的な地形が形作る自然景観は、江戸時代後期以降、多くの出版物や芸術作品に取り上げられ、人々に景観認識され、国指定名勝及び天然記念物として指定（春日町外：2016年（平成28）3月1日指定）されました。

③利根川南岸：利根川の変遷と沖積層の平野

縄文海進の頃には霞ヶ浦・印旛沼・手賀沼までつながる大きな内海が形成され、銚子は内海の入り口の南の端でした。この内海は「古鬼怒湾」と呼ばれています。古鬼怒湾は海退（海水準の低下）及び鬼怒川などが運ぶ土砂の堆積で徐々に狭まっていきました。この時銚子地域の沖積層が形成され、利根川南岸の平野もこれにあたります。この平野には現在の河岸線に沿って平行に、かつての浜堤を見ることができ、縄文時代後期から晩期の「余山貝塚」（余山町：1967年（昭和42）2月20日市指定）はこの浜堤の高まりに位置しています。

その後、古東京湾の湾口も北から砂州が延びることによりさらに狭くなっていき、この頃の内湾を「香取の海」と呼んでいます。

本市は、この太平洋に突き出た半島状の独特の地形、そして、国指定天然記念物「犬吠埼の白亜紀浅海堆積物」や国指定名勝及び天然記念物「屏風ヶ浦」をはじめとする地質資産を核として大地の成り立ちが比較的容易に、そして安全に学べる場所であることから、2012年（平成24）9月に日本ジオパークに認定され、市域全体を活動のエリアとして「銚子ジオパーク」活動を推進しています。



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。

(承認番号 平28情使、第307-GISMAP37439号)

図8 銚子の地形

銚子ジオパーク推進協議会提供

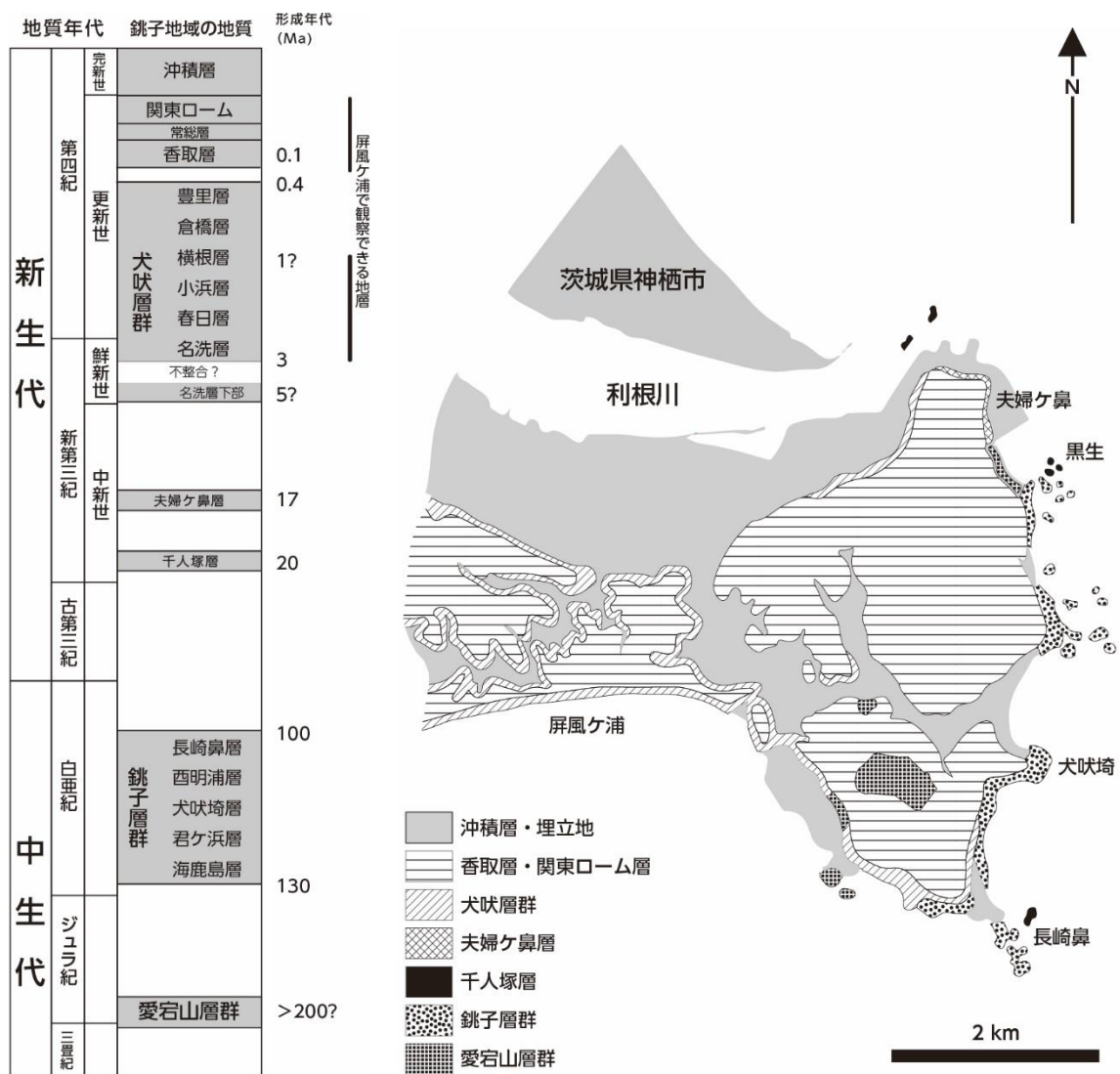


図9 銚子における地質層序（左）と地質図（右）

銚子ジオパーク推進協議会提供

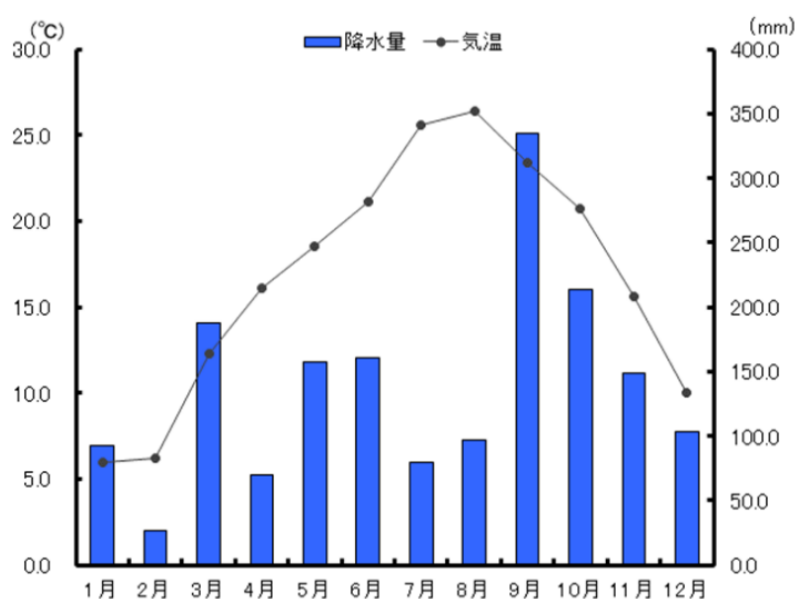
- ※1 沖積層 約2万年前の最終氷期最盛期以降に堆積した地層のこと。
- ※2 浜堤 波によって移動してきた物が堆積したりすることにより、主に海岸と平行に形成される低い嶺。
- ※3 付加体 日本は継続して大陸プレートと海洋プレートの境界付近に位置していたことがわかっており、現在までの長い時代にわたって海洋プレートの沈み込みをうけてきた。海洋プレートは深海堆積物や海山を載せており、これらの一部は海洋プレートが沈み込むときに、海溝にたまった土砂とともに大陸側に押しつけられ、はぎ取られる。これを付加作用といい、はぎ取られた地質体を付加体という。
- ※4 汎世界的な海水準変動

約260万年前以降は第四紀と呼ばれ、氷期-間氷期のサイクルが顕著化した時代である。このサイクルは、当初4.1万年周期であったが、約100-64万年前を境に約10万年周期のより寒暖の差が激しいサイクルとなった。第四紀において、全球の水の総質量は一定とみなせることから、気候変動による大陸氷河の拡大・縮小は、全球平均の海水準の変動とみなすことができる。

汎世界的な海水準変動は、数万年規模の長期の気候変動に伴って生じる現象であるといえる。過去数十万年間の海水準は、現在の海水準に比べ+5m-120m程度であったと考えられている。

(2) 気候

本市の気候は、銚子沖で黒潮と親潮が交わることにより「冬暖かく夏涼しい」海洋性の気候で、年間平均気温は15℃と温かく、降雪、降霜が少ない地域です。年間降水量は1,700mm以上あり、千葉県内でも雨が多く、雨と黒潮の影響により濃霧の発生する日が多い地域です。また、年間を通じて、北や北東からの風が頻繁に吹き、全国的にみても風が強い地域といえます。



資料 平成30年銚子市統計書

図10 気温と降水量の推移

(3) 植生

本市は、海岸一帯を中心に水郷筑波国定公園（第2種特別地域・第3種特別地域・普通地域）や千葉県立自然公園（普通地域）、風致地区に指定され、各種法令により開発行為が制限されています。このため、比較的多くの自然が残り、貴重な植生や環境に適した変化を遂げた植物を見ることができます。しかし、近年、内陸部で管理されないままの谷津田や森林の増加、犬吠埼周辺のクロマツ林の松枯れなど周辺環境が悪化し、帰化植物の侵入の状況も確認されています。

銚子の森は照葉樹林^{しょうようじゅりん}で、一年中緑豊かな土地です。人の手が加わっていない環境のなか形成された極相状態^{きょくそう}にある森林の中で最も広く見られるのは、スダジイやタブノキが茂った照葉樹林で、古い寺社の社叢林^{しゃそうりん}や丘陵の傾斜地でみることができます。社叢林のうち「渡海神社の極相林^{とくがい きょくそうりん たかがみにしまち}」（高神西町：1959年（昭和34）4月24日指定）と「猿田神社の森^{さるた さるだちよう}」（猿田町：1974年（昭和49）3月19日指定）が千葉県指定の天然記念物です。南向きの乾きやすい斜面や急な尾根の潮風の影響がやや強い場所はスダジイの林で、林の中にサカキやヤブニッケイなど常緑の低木があり、地表にはヤブコウジ・ベニシダ等の草本類が生えています。やや北向きの斜面や深い谷、沢沿いの湿った環境にはタブノキが多く、林の下はアオキが、地表はイノデが主体です。遠望すると青みがかったタブノキの密な樹冠^{じゅかん}が特徴的で、本市の自然景観を構成する大切な要素となっています。

海岸線の植生も特徴的で、「外洋性海岸砂丘地^{きみがはま}」の君ヶ浜一帯は、コウボウムギ、ネコノシタ、ハマゴウ、オオマツヨイグサ等を見ることができます。「犬吠埼崖地植生群落」や「犬若海岸崖地植生群落」では、海岸崖地の厳しい環境下で生育するイソギク、タイトゴメ、ハチジョウススキ、ヒゲスゲ等の植物群落があります。このような「崖地植生」は屏風ヶ浦に面する海食崖付近でも確認できます。

利根川の河川敷にはヨシ原が広がり、マコモ、ガマ類、オギ、カサズゲ等が観察できます。ヨシ原に混じって見られたタチヤナギ群集は、河川改修が進む過程で断片的なものとなりました。利根川沿いの浜堤上に形成された東光寺^{とうこうじ}（小船木町）には、千葉県の県木である「イヌマキ^{いぬまき}」がまとまって生育しており、市指定天然記念物（小船木町：1986年（昭和61）2月25日指定）です。この地域では、利根川方向から吹く「筑波おろし^{つくばおろし}」の北風を防ぐために「イヌマキ」を屋敷林として利用す



渡海神社の極相林



ネコノシタ



ハマゴウ



オオマツヨイグサ



イソギク



タイトゴメ

銚子の植物

る家を数多く見ることができます。

（４）生態系

本市には、約 150 種の鳥類が生息しているといわれています。利根川河口部から^{ながさきばな}長崎鼻までの沿岸部は、県内有数の渡り鳥の渡来地で、平成 24（2012）年度から千葉県「銚子鳥獣保護区」に指定されています。

利根川周辺の干潮により出現する干潟にメリケンキアシシギ等のシギ・チドリ類が採餌のために飛来していましたが、年々その数は減少しています。利根川河口では、冬になると多くの種類のカモメ、ウミネコ、ウミウ、海洋性のカモ等が飛来してきます。最も多いのはウミネコやセグロカモメで、外洋性のミツユビカモメも時折見ることができ、本市は日本及び世界でも有数のカモメ採鳥地となっています。黒生海岸や屏風ヶ浦等では、イソヒヨドリやハクセキレイ等が周年生息していることが確認され、屏風ヶ浦の上をハヤブサやチョウゲンボウ等の猛禽類が飛行している姿も確認できます。

春になると黒潮の流れにのって小笠原諸島や伊豆諸島からイルカ等が北上し、1 年を通じて 20 種類以上の野生のイルカ・クジラ類を見ることができ、東京から日帰り楽しめるイルカ・クジラウォッチングツアーを提供している観光船が運航しています。

また、千葉県レッドデータブックに掲載されているアカキツネ（重要保護生物）やニホンアナグマ（要保護生物）、カヤネズミ、ニホンジネズミ（一般保護生物）などの貴重な野生哺乳類が生息していることが確認されています。

さらに、特定外来生物に指定されているアライグマの生息も確認され、寺社などの建造物への侵入、屋根裏での糞尿、爪による傷つけなど文化財等への被害が増え、対策の必要性も生じています。



多種類のカモメが群がる



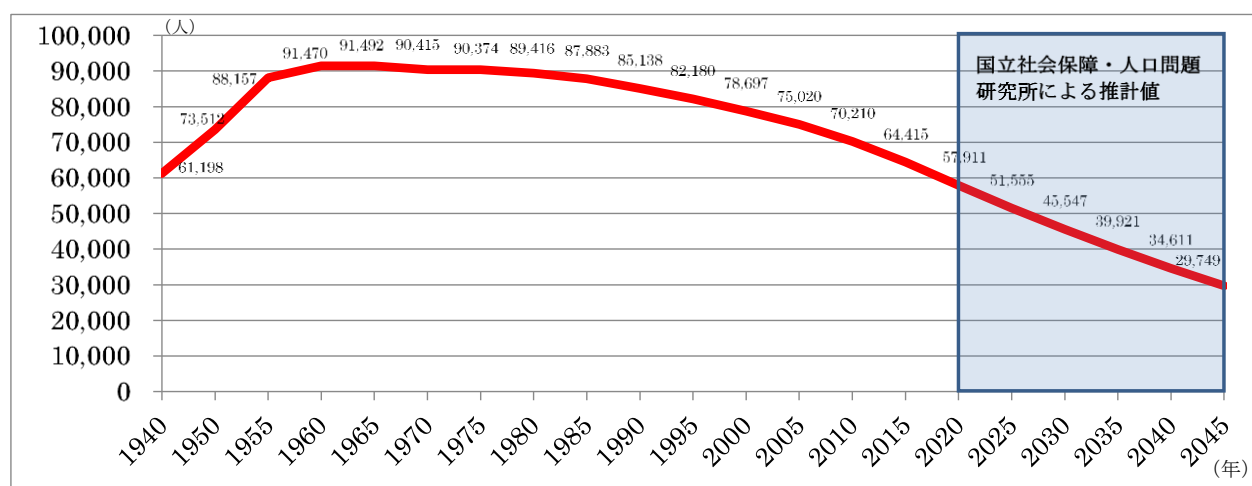
銚子沖を回遊するイルカ

銚子の動物

3. 銚子市の社会環境

(1) 人口・世帯数の推移

平成 27 (2015) 年度に実施した国勢調査で本市は人口 64,415 人、世帯数 26,234 世帯、一世帯当たり人員は 2.46 人という結果でした。人口は、1965 年 (昭和 40) の 91,492 人をピークに、1980 年 (昭和 55) に 89,416 人、2000 年 (平成 12) 78,697 人と減少し、住民基本台帳では、2011 年 (平成 23) に 7 万人を切り、69,299 人となりました。2018 年 (平成 30) は、人口 60,556 人、世帯数 25,920 世帯で、人口減少問題に直面しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、1960 年代前半をピークに減少し続けている本市の人口は、2040 年 (令和 22) に総人口が 34,611 人になると見込まれています。



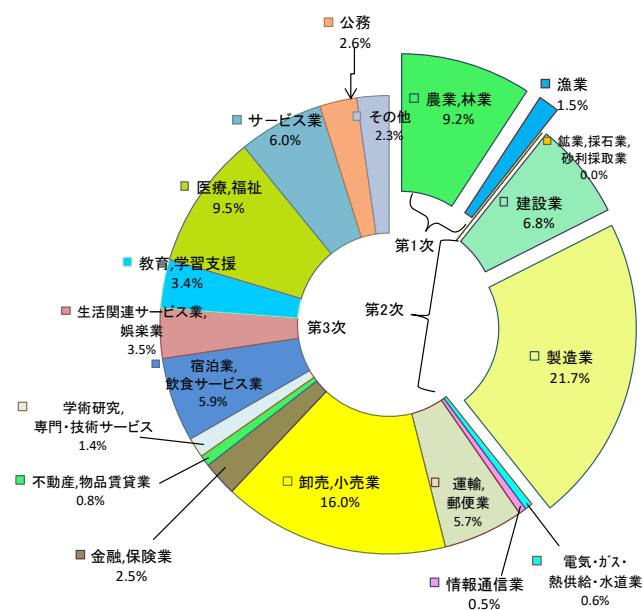
資料：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

図 11 人口の推移

(2) 産業

本市の基幹産業は、漁業、農業、醤油や水産加工などの製造業です。銚子漁港は、特定第3種漁港のひとつで全国有数の水揚げ量を誇り、9年連続水揚げ量日本一です。また、農業は海洋性の気候を利用したキャベツやダイコンなどの露地野菜が主力で、千葉県有数の農業都市です。

平成 30 (2018) 年度の 15 歳以上の就業者の割合を見ると、第1次産業に 10.7%、第2次産業に 28.5%、第3次産業に 58.4%が従事しており、1965 年 (昭和 40) から比べると第3次産業の割合が拡大しています。



資料 平成 30 年銚子市統計書

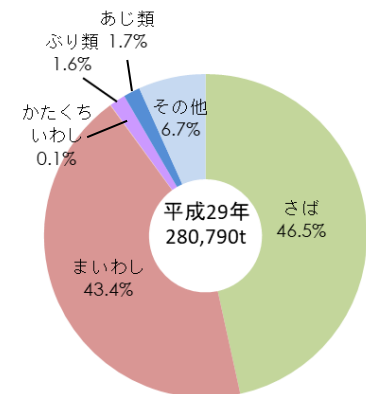
図 12 産業大分類別 15 歳以上就業者の割合

①漁業

黒潮と親潮が交わり、利根川から豊富な栄養が流れ込む銚子沖は、多種多様な魚種が集まる良好な漁場です。1658年（万治1）に紀州から来た^{さきやまじろうえもん}崎山治郎右衛門が外川に港を築き、漁業の町の歴史が始まりました。そして、商港であった銚子湊を近代的な漁港へと転換するために長い年月をかけて工事が行われ、現在、銚子漁港は水産業の振興上、特に重要な漁港として特定第3種漁港のひとつに指定され、全国有数の漁港に発展しました。古くから沿岸、沖合及び遠洋漁業の拠点港として利用されています。

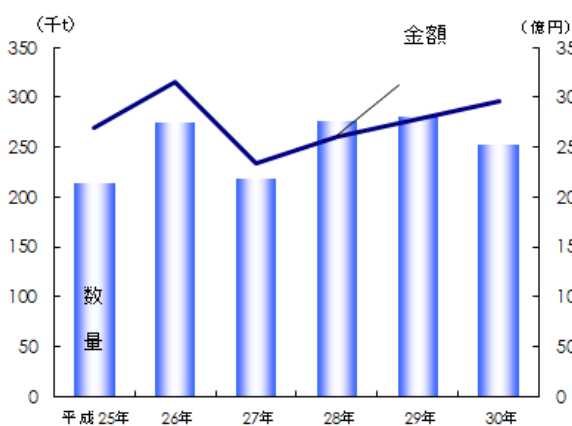
銚子漁港には3箇所の卸売市場があり、その中の第2卸売市場では大中まき網漁船を中心に入港し、サバ、サンマ、イワシなどの主要な魚種が水揚げされ、これらの魚種を中心に9年連続水揚げ量日本一を誇っています。総水揚げ量の約90%が大型のまき網漁業によるもので、これらの漁船の多くは地元の漁船ではなく、他の漁港に属する廻船です。地元の漁船は底引き網漁業等の比較的規模が小さい漁業が中心で、また年々漁港利用の実績が減少傾向にあることから、銚子漁港の更なる発展のためには廻船の誘致が重要な課題であり、それに伴い漁港整備の必要性が高まっています。

サバやイワシだけではなく、タイやヒラメなどの高級魚も漁獲され、銚子産水産物の付加価値を高める取り組みを推進しています。特に、銚子漁業の発祥の地である外川地区は小型船による立縄漁業で漁獲しているキンメダイを「銚子つりきんめ」としてブランド化を図り、千葉ブランド水産物第1号に認定され、ブランド力の向上を目指しつつ、資源管理を行っています。



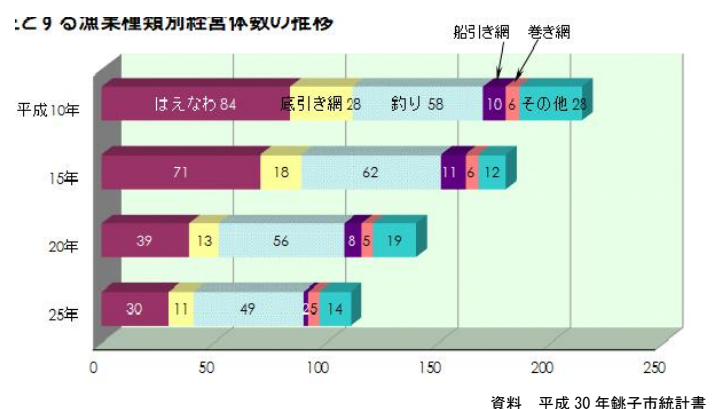
資料：銚子市漁業協同組合「主要魚種別水揚げ」

図13 主要魚種別水揚げ



資料：銚子市漁業協同組合

図14 銚子漁港水揚げの推移



資料：平成30年銚子市統計書

図15 主とする漁業種類別経営体数の推移

②農業

本市は、千葉県有数の農業都市であり、春キャベツの生産量は日本一を誇ります。海洋性の気候と首都圏から100 km圏内という地理的な利便性を生かし、キャベツやダイコンなどの露地野菜が主力商品となっています。本市の総耕地面積は2,540 haで、その約80%近くが畑地で、さらに県内トップクラスである農業産出額268億円のうち57%にあたる152億円を野菜が占め、畑作中心の営農です。

このように農業の発展の中で、一戸あたりの栽培面積が増加し、農地の集約化が進んだことで経営規模が拡大傾向にあり、このことが専業農家数と農業産出額の増加傾向に反映されていると考えられています。専業農家率は県の平均が30.6%であるのに対し、本市では55.6%で、販売農家戸数1,007戸のうち560戸が専業農家です。

また、農業の担い手が高齢化する一方で、新規就農者も一定数おり、担い手の確保にも取り組んでいます。そして、若い世代の就農者の中には、キャベツやトウモロコシなどを独自ブランド化し、自ら販路を築き、収穫体験や農業民泊などを通して農業の楽しさや銚子の魅力を伝える活動を行っている人材も生まれています。

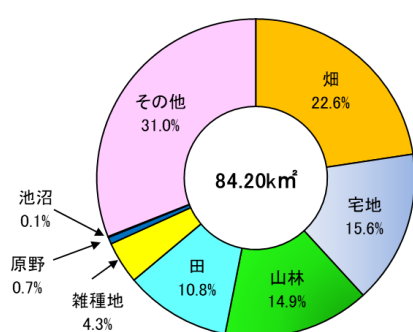
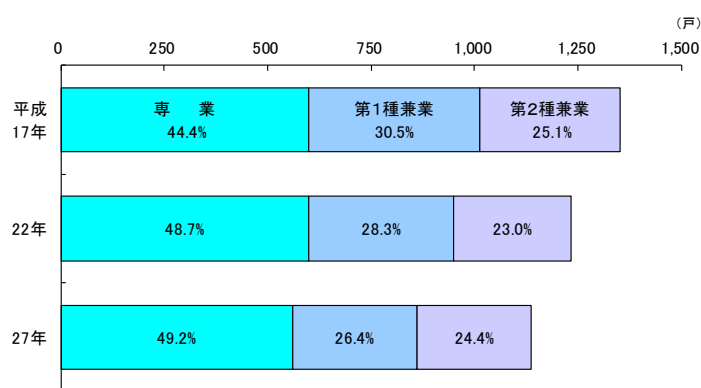


図16 土地の利用状況



資料 平成30年銚子市統計書

図17 専兼業別農家数の推移

③商工業

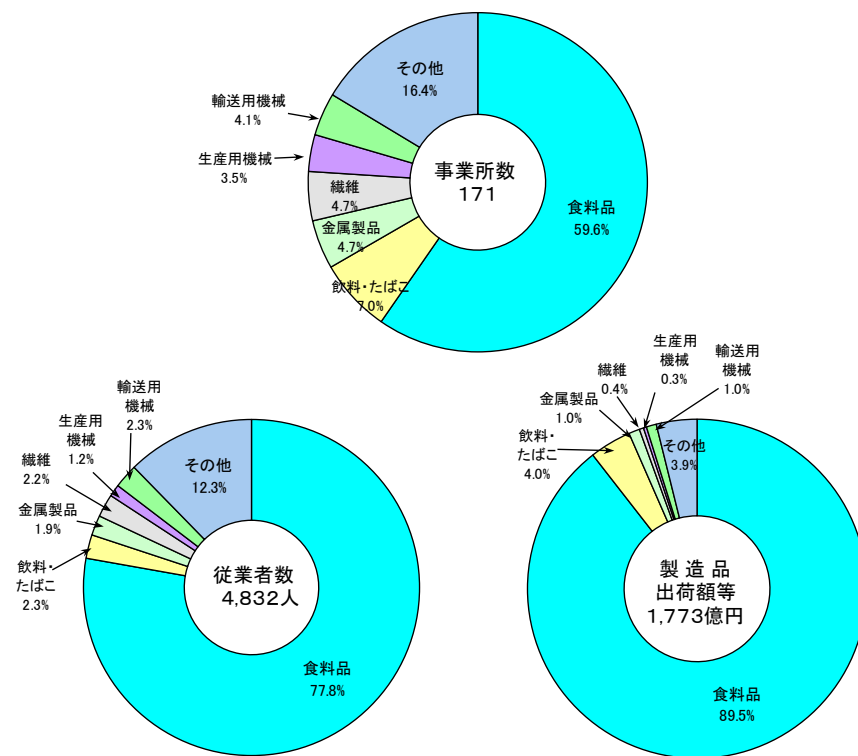
本市は、大地や自然の恵みと地の利を活かした「モノづくり」の歴史が続いてきました。特に、江戸時代に関西方面から漁業や醤油醸造の技術がもたらされたことにより、さらに大きく発展していきました。

製造業の中心は、水産加工業と醤油醸造業です。水産加工業の原点は、江戸時代に大漁に水揚げされたイワシを材料とした「干鰯^{ほしか}」や「鰯粕^{しめかす}」の肥料製造で、その後、食品加工品の製造へと移行していきます。また、1616年（元和2）に始まった醤油醸造は、江戸庶民の好みの味へ改良された結果、「江戸の食を支えた調味料」といわれるようになりました。さらに醤油醸造に適した気候や風土とともに、利根川が東遷し、利根川周辺の地域から醤油作りに必要な材料が集めやすかったこともこの産業を支えた理由です。

これらの代表的な製造業以外の伝統的な地場産業といえるものは、澱粉、焼き瓦、漁網やロープ製造、籐製品、^{かきがら}蛸殻、造船、鉄鋼業等でしたが、戦後、素材の変化や材料の枯渇、大手企業への統合、社会様式の変化等に伴い徐々に規模が縮小されていきました。

利根水運によって、江戸と東北諸藩をはじめとする各地を結ぶ結節地となった銚子は、商業も発展しました。江戸時代には「廻船問屋」や「穀宿」^{かいせんどんや}「仲買」^{こくやど}「船宿」^{なかがい}「引船」^{ふなやど}などの水運に関連する商いや「河岸問屋」^{かしどんや}なども勢いを持ち、江戸に支店を構える商家もありました。

市内の事業所数は、ここ数年、減少傾向にあり、働く場の喪失や中心市街地での空き店舗の増加により地域活力の低下を招くことにつながっていくことを危惧しています。そこで、「第2期銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略」（2020年（令和2）3月策定）で、「稼げる地域をつくり、安心して働けるようにする」ため、農業や漁業の基盤強化や販路拡大、地場製品の6次産業化などを目指しています。また、銚子の地域資源である風を活用した洋上風力発電施設など再生可能エネルギー産業の誘致と地域資源の地産地消による産業の活性化にも取り組んでいます。



資料 平成30年銚子市統計書

図18 産業中分類別事業所数及び製造品出荷額等割合

(3) 交通

本市の主要な幹線道路は、国道 126 号線（銚子市－東金市－千葉市）、国道 356 号線（銚子市－印西市－我孫子市）、国道 124 号線（銚子市－茨城県水戸市）や広域農道が道路網の骨格で、域内は国道 126 号線と国道 356 号線をつなぐように県道や市道が整備されています。

鉄道は、JR 東日本が東京駅から千葉駅、八日市場駅を經由し、銚子駅を結ぶ総武本線と佐倉駅から松岸駅間を結ぶ成田線が敷線しています。

総武本線は、1889 年（明治 22）に総武鉄道株式会社を創立し、現在の総武本線のルートの敷設工事を開始。1897 年（明治 30）に成東駅から銚子駅間の工事終了に伴い、総武鉄道全線が開通し、1907 年（明治 40）に総武鉄道が国有化されました。そして、1909 年（明治 42）に国有鉄道線路名称制定により、両国－銚子駅間が総武本線となりました。

1900 年（明治 33）、銚子駅が市内の工場地区や漁港から離れた位置にあったので、総武鉄道株式会社は銚子－新生貨物駅^{あらおい}を開設しました。さらに、銚子駅側の本線から北へ分岐して、千葉県所有の専用側線、通称「臨港線」^{りんこうせん}を整備し、新生貨物駅から銚子漁港の中央市場前まで約 1.0 km 線路を延ばしました。この駅は、1978 年（昭和 53）に廃止され、現在、中央みどり公園となっています。

成田線は、1895 年（明治 28）、下総鉄道（のちの成田鉄道）が会社を設立し、敷設工事が始まり、1920 年（大正 9）に成田鉄道が国有化されました。その後、1933 年（昭和 8）に笹川－松岸駅間が開通し、成田線が全通しました。

銚子駅から外川駅^{とかわ}を結ぶ銚子電気鉄道は、総武鉄道株式会社が銚子から外川への路線の延長を計画し、1901 年（明治 34）に免許を取得しましたが、利用者の増加が見込めないなどの理由により敷設を断念しました。



図 19 市内の幹線道路

その後、1909年（明治42）に地元の有力者である濱口吉兵衛、13代田中玄蕃、小野田周斎らが銚子人車鉄道の計画を申請しましたが、こちらも実現に至りませんでした。1912年（明治45）、彼らは銚子一外川間に蒸気鉄道の敷設を申請し、1913年（大正2）に銚子遊覧鐵道株式会社を設立、同年12月28日に銚子一犬吠間を開業しましたが、経営不振や第一次世界大戦の影響により1917年（大正6）に廃止されました。その後、1921年（大正10）に再度、銚子鐵道の敷設願いを提出し、1922年（大正11）に免許取得、1923年（大正12）に外川まで延伸、開通し、度重なる経営危機を乗り越えながら今に至っています。

この3系統の鉄道網を補完する形で中心市街地と周辺地域を8系統の路線バスでつないでいます。また、現在、鉄道以外の東京までの交通手段として東京駅へ直行する高速バスが3ルートあり、1日43往復86本運行しています。

（4）観光

本市は、坂東三十三観音霊場第二十七番札所の飯沼観音を代表する寺社への参詣や海岸沿いの風光明媚な自然景観、海水浴と犬吠埼灯台が古くから人気のある旅行のコンテンツとして、団体客や家族等を中心に訪れる観光地として栄えてきました。特に、江戸時代後期、利根水運が今でいう高速道路の役割を果たし、「銚子磯めぐり」として江戸から来た文人墨客をはじめとする多くの旅人を魅了し、銚子へ滞在した旅行記等が出版されたことも人気を高める理由の一つになりました。現在の本市への来遊目的は、観光入込状況（図20）をみると、社寺参詣客、一般観光客、買い物客で大部分を占めています。

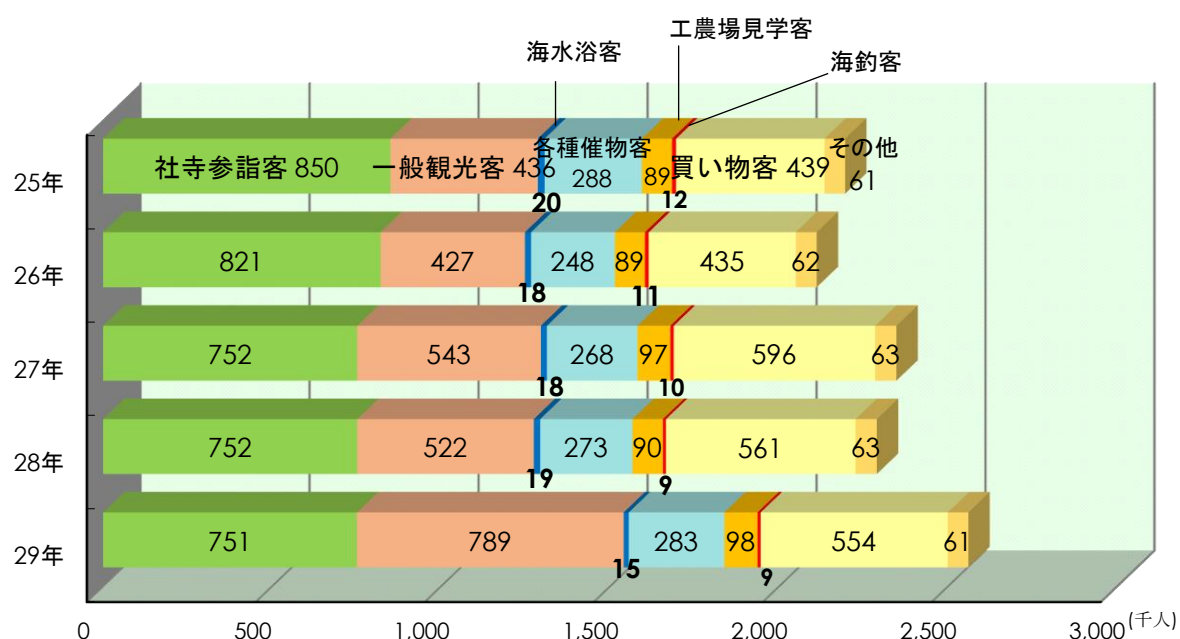
昭和50年代は160万人から180万人を推移していた観光入込客数が、1985年（昭和60）に銚子を舞台としたドラマが放映されたことで来遊客が222万人を超えました。その直後、200万人を割り込みましたが、平成に入ってから200万人から270万人の間で推移してきました。そして、2010年（平成22）には観光入込客数が280万人を超え、宿泊者数は23.8万人まで増加しましたが、2011年（平成23）3月11日に発生した東日本大震災後、観光入込客数が200万人、宿泊者数が16万人まで落ち込んでしまいました。2019年（平成31）1月から12月までの観光入込客数は2,554千人、宿泊者数が196千人で、大規模なイベントがある月やテレビなどで銚子が放映された後は、一時的に観光客が増えるのですが、震災前の数字に戻らない状況が続いています。

このような状況を改善するために、一般社団法人銚子市観光協会（以下、「市観光協会」という。）を中心に「銚子版DMO（「Destination Management Organization」）構築による観光まちづくり」事業に平成29（2017）年度から令和2（2020）年度までの4か年で取り組んでいます。水産業、農業、商業、二次交通機関が連携し、「地域の稼ぐ力を引出し、地域への誇りと愛着を醸成する観光地経営」の視点に立った観光地作りのかじ取り役としての役割を果たす組織作りを目指しています。

本市を訪れる観光客の多くは、滞在時間1～3時間以内の日帰り客です。DMOに取り組む中で、「犬吠埼灯台」や「屏風ヶ浦」、「海の幸」などの魅力と誘客力のある個々の観光資源を組み合わせることで、付加価値のある商品を開発し、より強い稼ぐ力を発揮していこうとしています。このような活動の中で、日帰り客の1割程度に留まる宿泊者数を増やし、長時間滞在につなげていき、宿泊観光への移行を目指しているところです。観光客に本市での滞在時間を延長してもらうため

には、主要な観光資源を自家用車で周遊するだけでは難しいといえます。本市へ訪れる観光客の7割近くは自家用車及び観光バスを利用しています。また、JRを利用して来訪する観光客は、銚子駅到着後、タクシーや銚子電鉄、路線バスなどの2次交通を活用し、周遊しています。しかし、これらの2次交通では、運行ルートや運行時間などに制約があり、旅行の自由度は限られてしまいます。このような中、小回りが利き、行きたい場所に行ける電動アシスト自転車のレンタサイクルを活用して、自分自身のペースで周遊する観光客が増えています。市観光商工課等は、このレンタサイクルと2次交通を活用して市域内を周遊できる情報を掲載した「銚子 自遊自在マップ」を作成しています。銚子ならではの見どころの情報の発信、銚子らしい体験、駐車場を含めた核となる拠点施設や各見どころをつなぐレンタサイクルの整備、拠点施設から周辺の見どころを楽しむまち歩きルートの構築を行うことにより、滞在時間の延長を目指しています。

また、本市は銚子資産を活かした地域振興及び観光振興を推進しています。例えば、銚子の大地の成り立ちと人々の関わりをテーマとした「銚子ジオパーク」(2012年(平成24)日本ジオパーク委員会認定)や、日本遺産に認定された千葉県内の佐倉市、成田市、香取市とともに江戸時代の江戸の町を支えた歴史ものがたり「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み～佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的な町並み群～」(2016年(平成28)文化庁認定)です。これらの事業をはじめとして、個々の銚子資産の価値や魅力とそれぞれが支え合い生まれる地域の歴史文化に基づくストーリー(ものがたり)を活かして「歴史文化観光」につなげようとしています。



資料 平成30年銚子市統計書

図20 観光入込状況